

総合単元名	公徳心をもって	5月～7月	全8時間
めざす子ども	公徳心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす子	中心項目	4ー(1)
ねらい	公徳心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たそうとする態度を育てる。	関連項目	4ー(3)

単元設定の理由

児童はきまりをまもらないといけない、という意識はもっている。しかしその意義を十分理解していなかったり分かっている自分の気持ちや権利を優先してきまりを守れなかったりする姿も見られる。そこで、きまりの意義を理解し、公徳心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たそうとする態度を育てたいと考え、本単元を設定した。

時期	教科・特別活動 総合的な学習の時間等	道徳の時間	常時活動 家庭との連携	子どもの意識の深まり
5月	①学校行事 5月(2時間) 「野外活動」 みんなで決めたきまりを守ったり、係の仕事責任を持って行ったりして、楽しく活動することができる。	②<役割・責任> 4ー(3)5月(1時間) 「とりかえしのつかない一日」 自分達の所だけ空白になったグラフを見た三人の気持ちを考えることを通して、任された責任の重さに気付き、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。		①きまりを守りながら友達と協力し、自分の係の仕事を一生涯懸命に楽しい活動にしよう。 ②自分がやりたいことに気をとられて自分の役割を忘れてしまうとたくさんの人に迷惑をかけてしまう。みんなのために自分に任された仕事は責任を持ってやりきらないといけない。
6月	③学級活動 6月(1時間) 「雨の日の過ごし方」 みんなが気持ちよく過ごせるような雨の日の過ごし方について話し合えることができる。		(◆帰りの会) みんなが楽しくなるような学級遊びのルールについて考えることができる。	③きまりを守るとみんなが安全に気持ちよく過ごせるだろうな。 ◆みんなが楽しくできるにはどんなルールがいいのかな。
7月	⑤家庭科 7月(1時間) 「できることから始めよう」 調理のきまりを守りながら安全に実習をすることができる。	④<公徳心・規則の尊重> 4ー(1)6月(1時間) 「星野君の二るい打」(本時) うつむいたままの星野君の気持ちを考えることを通して、きまりを守る意義に気付き、きまりや規則の意義を理解し、自分に課せられた義務を果たそうとする心情を育てる。	(★家庭との連携) 家の人の協力を得て学校のきまりの守り方を考えることができる。	④自分のできる、という気持ちより、みんなで決めたチームの規則を守らないといつかみんなが楽しくなくなってしまうかもしれない。 ⑤楽しいからついきまりを意識せずにやりきることができなかった。どうすればよかったのかな。 ★きまりを守るのは難しいな。どうすれば守れるんだろう。家の人と一緒に考えてみよう。
	⑦学級活動 7月(1時間) 「夏休みのくらし」 自分もみんなも楽しい夏休みになるようなきまりの守り方について考えることができる。	⑥<公徳心・規則の尊重> 4ー(1)7月(1時間) 「シンガポールの思い出」 丹野さんの言葉が気にかかった「わたし」の気持ちを考えることを通して、きまりはみんなが安心して生活するためにあるもの、それを主体的に守っていく姿勢の大切さに気付き、公徳心をもって法やきまりを守り、進んで義務を果たそうとする態度を育てる。	(■業間遊び) 主体的にルールを守りながら楽しく遊ぼうとすることができる。	⑥きまりはみんなが安心して生活するためにつくられたんだ。でも守られるのじゃなくてみんなのことを考えて自分からできることをしていくようにしたいな。 ■自分勝手にしないでみんなで楽しめるように考えてルールを守ったよ。 ⑦家でも外でもみんなが気持ちよく過ごせるようにきまりを守れるような夏休みしよう。
公徳心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす子				

「道徳の時間」学習指導案

指導者 池田 明子

- 1 日時 2012年(平成24年)6月29日(金) 第5校時
- 2 学年 第5学年 男子8名 女子15名 計23名
- 3 主題名 きまりを守る 中心項目 4-(1) 〈規則尊重・公德心・権利義務〉
関連項目 4-(3) 〈役割・責任〉
- 4 ねらい うつむいたままの星野君の気持ちを考えることを通して、きまりを守る意義に気づき、きまりや規則の意義を理解し、自分に課せられた義務を果たそうとする心情を育てる。
- 5 資料名 星野君の二るい打 (出典:希望をもって道徳⑤:東京書籍)

6 主題設定の理由

- 他人に迷惑をかけないこと、公共物を大事にすることなどは、社会生活を円滑に営むために大切な心構え、公德である。そして、トラブルを未然に防いだり解決したりするために、それらを成文化したものが法やきまりである。

この時期の児童は、集団でする競技や遊びを好み、自分達で作ったきまりを大切に考え、よく守ろうとする。しかし、学校や家庭でのきまりに対しては守られるという意識もあり、また自分勝手な理由から守れないこともある。きまりや規則は集団の目的を遂行し、集団生活を円滑にするために必要なものである。したがって個人の好き勝手は許されず、時にはつらいこともある。人はだれも自分の思うように生きたいと願い、きまりや規則は束縛されるものと映る。そこで、きまりや規則の意義を十分考え、これを守って自分の義務を果たそうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

- 本学級の児童は、きまりの意味を考えて行動しようとしている。事前アンケートでは、95%の児童が「ふだんきまりの意味を考えている」と回答している。さらにその32%の児童が、きまりの意味は「みんなのため」と理由づけている。また、「学校や社会の中で、自分がしてもいいことをするだけでなく、しなくてはいけないことはきちんとしている」には91%、「学校や社会のきまりを守ろうとしている」には95%の児童が肯定的な回答をした。しかし守ろうとしている中にも、45%の児童が「守れない時がある」と回答した。このことから、「きまりは守るもの」という意識はあるものの、主体的に遵守しようとしなないことが分かる。

児童の中には、アンケートにはすべて肯定的回答をしているものの、学校のきまりを守らず、自分の欲求のままに行動する姿も見られる。

- 本資料は主人公の星野くんが監督の指示に従わないという道徳的な問題に関わる状況と、それに対する監督の厳しい忠告が描かれている。主人公にそういう行為を引き起こさせたものと監督の厳しい対応から、きまりを守る意義を理解させ、自分に課せられた義務を果たす大切さに気付かせることのできる資料である。

導入では、ボールやバットを使い、野球のルールを伝えたり雰囲気をつかませたりして資料につなげていきたい。展開では、まず、監督の指示に従わず打つことに決めた星野君の気持ちを考えさせたい。中心発問では自分の思いや判断を優先する心と規則には従わなくてははいけないという心を対比させ、規則を守ることは結局チームが勝つことにつながり、みんなのためになることに気付かせていきたい。展開後段では日常生活から規則やきまりを守る大切さを感じた場面を想起させる。終末では、きまりを守っている日常の児童の様子を紹介し、今後の実践への意欲を高めたい。学習後は、業間遊びで楽しく遊べるよう考えてルールを守っていけたり夏休みのきまりを守って過ごせるようにしたりすることで道徳的価値を高めていきたい。

「伝え合う」については、学習プログラムの内容を本時の内容とかわらせながら考えを深めるという段階である。

本時は、自分の思いや考えを持たせるためにワークシートを用い、一次的に価値を深めるためにペアトークを行う。

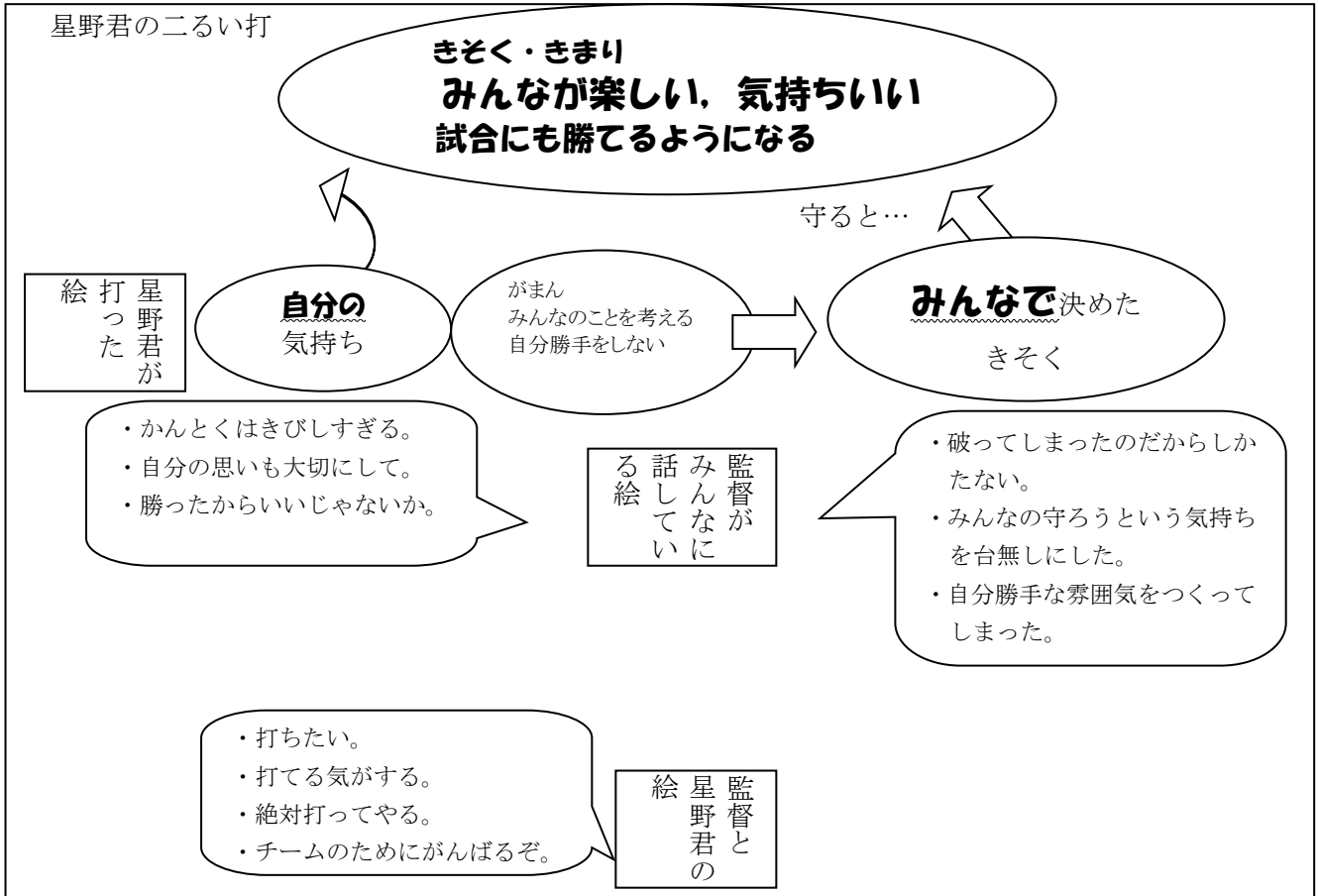
7 準備物 場面絵, ワークシート

8 学習過程

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	支援(○)・評価(★)・改善点(◎)
導 入	1 野球の雰囲気をつかむ。		○ボールやバットを使い、野球のルールを伝えたり野球の雰囲気をつかませたりする。
	2 資料「星野君の二塁打」を聞き、星野君の気持ちを考える。	○星野君はどんな気持ちで少し姿勢を変えたのでしょうか。 ・今度こそ絶対打てる。 ・絶対に打って点を入れるぞ。 ・バントじゃなくてもヒットを打てばいいんだ。 ・チームのためにがんばるぞ。	
展 開	3 うつむいたままの星野君の気持ちについて話し合う。	◎うつむいたまま星野君はどんなことを考えていたでしょう。 (自分の思いが優先) ・監督はきびしすぎる。 ・もうピッチャーができないのかな。 ・チームが勝ったのだからいいじゃないか。 ・自分の思いも大切にしてほしい。 (自分の思いと規則の間で迷っている) ・監督の言うことも分かるけどチームは勝ったからいいんじゃないかな。 (規則優先) ・みんなで決めたきそくを破ってしまったのだから仕方ない。 ・いくら打てそうだと思ってもきそくを破ったらいけなかったんだ。 [補助発問] ●監督はどのように考えてきびしいことを言ったのでしょうか。 ・星野君の気持ちが分かるけど、みんなで決めた規則を守ってほしい。 ・許すとみんなが自分勝手にしはじめる。すると、試合にも勝てなくなる。だから一人一人が守らなくてはいけない。 ・みんなが相談して決めた規則なんだから破ってはいけない。楽しくなくなる。	◎ワークシートに自分の考えを書かせる。 ○それぞれの考えを比較させ、気付いたことを出させる。 ○「チームのために打った」という意見には、監督の指示を無視して自分で判断して打つことが本当にチームのためになるのかとゆさぶりをかける。
	4 規則やきまりの意義について考える。	○規則やきまりを守る大切さを感じたことはありますか。 ・廊下を走っている人がいてとても危なかった。きまりを守らないとみんなが困ると思った。 ・ベルで席に着くきまりを守っているから気持ちよく授業が始められる。	★きまりはみんなが楽しく気持ちよくするためにあるもの、それを主体的に守っていく姿勢の大切さに気付くことができたか。
終 末	5 教師の説話を聞く。		○ワークシートを活用し、本時の道徳的価値について自分の考えをまとめさせる。

9 板書計画

星野君の二るい打



10 ワークシート

♥ 今日感想

〇うごむいたまま星野君はどんなことを考えていたでしょう。

監督が
みんなに
話してい
る絵

星野君の二るい打 名前